

【小学校・中学校・義務教育学校用】
令和7年度学校評価 中間評価

学校名	武雄市立武雄中学校
1 前年度 評価結果の概要	・フォーサイト手帳の活用を主軸として、主体的に学ぶ生徒の育成を目指す。 ・生徒会活動を主軸として生徒主体の仲間づくり、学校づくりをさらに推進する。 ・全学年を通した系統的な「総合的な学習の時間」の充実、生徒、保護者、地域の三者連携による特色あるカリキュラムを通して、郷土愛の醸成をさらに推進する。
2 学校教育目標	高い志と誇りをもち、共(友)に学ぶたくましさ生徒の育成

3 本年度の重点目標	①フォーサイト手帳の活用促進を通して、キャリア教育の一層の充実を図り、PDCAサイクルを生かし、主体的に学ぶ態度を身に付けさせる。 ②出番、役割、承認の「開発的生徒指導」を活用した生徒主体の生徒会活動を充実し、生徒主体の仲間づくり、学校づくりを行わせる中で「発達支持的生徒指導」を実現する。 ③教職員がウェルビーイングの実現を目指すことを通して健康的に日々の業務に従事できる環境整備に努め、質の高い教育を実践する。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 中間評価

(1)共通評価項目				中間評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度 (評価)	中間評価
	取組内容	成果指標 (数値目標)			進捗状況と見通し
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・主体的な学習者の育成へ向けた個別最適な学びと、協働的な学びの充実～DXとフォーサイト手帳の活用を通して～	○ICTを効果的に活用して、自分に合った学習に取り組んでいると回答した生徒70%以上 ○私は、友達、友達の意見を聞いて考えを広げたり深めたりしながら課題解決に取り組んでいると回答した生徒70%以上 ○フォーサイト手帳を活用して計画を立てて学習や生活をしていると回答した生徒70%以上	・業績評価において授業改善のための評価指標を立て、授業実践を行う。 ・朝の会と帰りの会でフォーサイト手帳を活用して生徒に見通しと振り返りをさせるための指導と評価を行う。	A	・7月に実施したアンケート調査で、「自分に合った学習に取り組んでいる」に肯定的に回答した生徒が92%。 ・7月に実施したアンケート調査で、「友達の意見を聞いて考えを広げたり深めたりしながら課題解決に取り組んでいる」に肯定的に回答した生徒が93%。 ・7月に実施したアンケート調査で、「フォーサイト手帳を活用して計画を立てて学習や生活をしている」に肯定的に回答した生徒が73%。
	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○①支持的風土を醸成する取り組みをしている教師80% ○「自分の役割や出番があって楽しい」と回答した生徒80%以上	・学級活動の充実を図る。実態に応じて構成的グループエンカウンター、ソーシャルスキルトレーニングなどを取り入れ、計画的に行うことで、よりよい人間関係をつくる。 ・生徒会活動や学校行事等さまざまな場面において、生徒に役割と出番を与え、認め合う場を設定する。	A	・支持的風土を醸成する取り組みをしている教師98.1% ・「自分の役割や出番があって楽しい」と回答した生徒80.4% ・数値目標をどちらも達成しているため、今後も継続して活動が続ける。
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「先生は、いじめや悩みがあれば早くきちんと対応してくれる」と回答した生徒90%以上 ○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について組織的対応ができていないと回答した教員100%	・毎月第3木曜日にいじめアンケートを実施する。 ・アンケートに記載された内容は漏れなく聞き取りを行い、複数職員で早急に対応する。 ・いじめの認知について、教職員の共通認識を図り、適切な支援・指導及び未然防止に全職員で取り組む。 ・いじめ対応に関する研修会を全職員向けに9月に実施する。 ・臨場指導を行う。	A	・いじめ防止等について組織的対応ができていないと回答した教員100% ・「先生は、いじめや悩みがあれば早くきちんと対応してくれる」と回答した生徒93.1%。否定的回答をしている生徒を取りこぼさない指導を行っている。 ・毎週の生徒指導部会で、いじめの認知や支援・指導についての共通認識を図ることができた。生徒に寄り添った聞き取りや早急な対応を、引き続き徹底していく。 ・いじめ対応に関する研修会については、8月末に実施した。
	●◎生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上	・生徒の学習活動においては臨場指導を行い、評価方法を工夫して生徒に伝える。 ・キャリアパスポートを活用したキャリア教育を期間や指導方法を示して計画的に行う。 ・各種体験活動では、生徒に見通しと学びの振り返りを取り入れた活動を行わせる。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒94.3% ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒77.2%。学年が上がるにつれて肯定的回答の割合が増えているので、引き続き指導を充実していく。 ・キャリアパスポートの活用を計画的に確実に実行していく。 ・フォーサイト手帳の活用を支援を行い、生徒が見通しをもって行動できるように指導を継続していく。
	○教育相談体制の充実	○不登校生徒6.0%以下	・教育相談部連絡会を週に1回開催し、気になる生徒に対する初期対応及び深刻な問題へ発展しないための組織的対応を行う。 ・保健室来室者や欠席者、気になる生徒を全職員で把握し、対応する体制を強化し、予防や早期発見を図る。 ・スクールカウンセラーの活用を工夫し、全生徒への支援を充実させる。 ・ほっとルームの効果的な活用を工夫し、生徒それぞれに合った支援体制をつくる。	A	・現在完全不登校生徒は約3%、不登校傾向生徒は約2%である。昨年度完全不登校だった生徒が別室などを利用し、登校できるようになった。しかし、不登校傾向生徒は増えてきている。今後も各担任や養護教諭、SC、SSW、別室支援員、訪問相談員、教育相談担当、管理職との連絡体制を整えて、より一層の迅速な対応を心掛け、不登校生徒を増やさないようにしたい。また、完全不登校の生徒たちへの働きかけがより充実するための方法を考えていきたい。
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」生徒92.3%以上 ○朝食をとって登校する生徒88.3%以上	・食事、健康に関する調査の実施 ・食育だよりの発行 ・食育にかかる授業実践	B	・「健康に良い食事をしている」と答えた生徒は90.1%と目標値を下回っていた。 ・朝食をとって登校する生徒は90.1%と目標値を上回っていた。 ・食育健康に関する調査を6月に実施した(全学年)。 ・6月と7月に年々において野菜摂取に関する授業を行った。9月以降、1年生と3年生において授業実践を行っている。 ・食育だよりは毎月発行している。給食の時間には教室を訪問し3分程度の話をしている。
●健康・体づくり	○健康の維持・増進	○「睡眠時間を6時間以上とっている」と回答した生徒87%以上	・睡眠の大切さを伝え、睡眠時間を6時間以上とることを目安として健康増進を図る。 ・保健だよりを発行する。 ・生徒の生活状況を取り取り個別指導を行う。	A	・生徒会保健部会の活動の中で「早寝コンテスト」を企画し、各学級で22時30分までに就寝するよう呼びかけた。 ・毎月発行しているほっとだよりに睡眠に関する特集を記載し、生徒、保護者への啓発を行った。睡眠の大切さについてPTA研修部とも連携し、今後も意識を高めていく。 ・保健室利用時に、睡眠不足が原因の生徒には個別に保健指導を行った。 ・「睡眠時間を6時間以上とっている」と回答した生徒91.0%で目標値は達成した。
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・管理職は業務記録表やヒアリング等をもとに相談や指導を行い、時間外労働時間を月45時間以内にするため具体的な業務改善を推進する。 ・働き方改革プロジェクトチームを立ち上げ、業務改善案を提案していく。	C	・「管理職は業務記録表やヒアリング等をもとに相談を行って状況の改善を図ろう」としてが、具体的な改善策が打てないでいる。働き方改革プロジェクトチームが立ち上げられていないが職員からのアイデアは寄せられているので推進していきたい。
●適正な部活動の運営	○適正な部活動の運営	○「休養日を適切に設定し、活動と休養のバランス(活動時間は週8時間)を図った部活動運営を行った」と回答した教師95%以上	・部活動運営計画に則り、休養日を設定する。 ・毎月第3日曜日の「県下一斉部活動休養日」の実施。	B	・「休養日を適切に設定し、活動と休養のバランス(活動時間は週8時間)を図った部活動運営を行った」と回答した教師90.6%で目標値を下回った。まずは教職員が100%回答になるよう改善を図りたい。
	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員85%以上	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・個別の支援計画・指導計画を作成し活用する。	A	・特別支援に関する専門性が向上した教員は96.2%で、昨年度より4.1%上回って目標を達成することができた。今後4回の研修を計画している。 ・教育支援計画、指導計画の共有方法を検討する。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度 (評価)	中間評価
	取組内容	成果指標 (数値目標)			進捗状況と見通し
○探究学習の充実	○①らの生き方を考えるため、問いや課題を見出し、探究的に学習し行動して解決する態度の育成	○「この時代を生きる自分の進路・生き方についてよく考えることができた」と回答した生徒80%以上	・学年の段階に応じ、地元各界のゲスト・ティーチャーに学ぶ(講話・活動等)機会を設ける。 ・調査活動など実践方法、得た成果や派生して生まれた新たな課題、成果を表現する方法等々について、フォーサイトを活用し記録させる。	B	・学年で実施する行事等に絡めながら、関係する専門家(ゲスト・ティーチャー)に学ぶ機会を、適宜適切に設けられている。年度ごとに、新たなゲスト・ティーチャーを探すのではなく、継続的、発展的な関係を築いていきたいものである。【例】1年生「オナネを知る」・佐賀銀行武雄支店より ・左記についてフォーサイトと連携させる活動については、未開始であると感じている。
○安全教育の充実	○安全な生活環境の確保	○「学校は安全に過ごせる」と回答した生徒85%以上	・安全点検・避難訓練を実施し、生徒・教職員の安全の確保、交通事故・生活事故防止に対する意識を高める。 ・防災教育を実施する。 ・生活部の保護者と連携し、年に3回程度朝の交通安全を行い、交通事故の未然防止につなげる。	A	・「学校は安全に過ごせる」と回答した生徒は94.7%であった。 ・「安全点検を確実にいし事故防止に務めている」と回答した教職員は100%であり、「危機管理マニュアルや消防防災計画を確認して緊急時に自分ができるべき行動を把握している」についても90.6%であった。100%になるよう対策をとる。 ・今後も避難訓練等を通して、生徒教職員ともに安全に対する意識を高めていく。